

Your Ref.: 2691-000046/US
Our Ref.: 62172US/P-698WO

Partial English Translation of JP-Y1 34-4254

Claim for utility model registration

A structure in a pile stitch weft knitting machine, wherein as shown in figures, a sub needle bed 9 having a front end thereof directed to an upper end of a needle bed 1 is inclined downward, and a sub sliding board 16 has: in a middle thereof a stitch cam having a shape of inverted trapezoid; and rising cams 19, 20 on both sides of the stitch cam, the rising cams 19, 20 including working faces to which antislip pieces 22, 23 pulled out by a spring 28 are attached by shafts of the antislip pieces 22, 23.

特許庁
実用新案公報実用新案出願公告
昭34-4254

公告 昭34.3.27 出願 昭31.6.26 実願 昭31-32201

出願人 考案者 隅田利郎 大阪市旭区上辻町34
代理人 弁理士 岸本守一 外1名

(全2頁)

横式バイルメリヤス編機

図面の略解

第1図は本実用新案品の要部の縦断正面図、第2図は同じく平面図で、摺動盤を省略したものと示す。第3図は製品たるバイルメリヤスの正面図である。

実用新案の説明

本実用新案は、横式メリヤス編機の傾斜した針床の上方に、バイル引出針を有する副針床を平行に架設し、この上に、主針床の摺動盤に共動してバイル引出針を動かすカム装置を備え、地糸とバイル糸とを引掛けて縫メリヤス組織を編み、同時にそのシンカーウエールの部でバイル糸を引出し、バルイをつくる型の横式バイルメリヤス編機に於て、副針床を前端の方向に傾斜させ、且これに属するカム装置を、倒梯形の下げカムの左右に上げカムが在り、該上げカムに対し、一端を軸支しバネに依つて引張つた摺動性のバイル引出針により止片を接触させた構造を特徴とするものである。

図に於て、1は一般的横式メリヤス編機の針床、2はその針溝、3はこれに嵌められた杓子針、4はそのバッド、5はこの針床に属する摺動盤、6は中央の蝶型上げカム、7,8は左右の下げカム、9は針床1の頂上方に針床1と平行に架設せられた副針床で、前端を針床1の上端に向けて下方に傾斜し、前端を針床1の頂端に接近している。10はその両端を針床1の両側に支持枠11に取付けた杆、12は針溝で、針床1の針溝2と交互の位置に刻まれている。13は針溝12に嵌られたバイル引出針、14はその先端の叉状部、15はバッド、16は副針床9上の副摺動盤、17は之を主摺動盤5に取付けた杆、18は副摺動盤16に取付けられた倒梯形の下げカム、19,20はその左右に配置せられた上げカム、21は両上げカム19,20の下端の間に渡された軌条、22,23は上げカム19,20に対して設けられた摺動性のバイル針により止片、24,25はそ

の軸で、上端は副摺動盤16の上面に突出ており、この部に有するピン26,27がバネ28で互に連結せられ、このためにより止片22,23の先端は、上げカム19,20の作用面に接触している。29は地糸の糸口、30はバイル糸の糸口で地糸の糸口29より少し高い位置に保たれる。31は摺動盤5に附屬した糸口支持杆、32は糸口取付部、33は摺動盤5に支片34で取付けられた軸子で、副針床9の下面を支えている。35は地糸、36はバイル糸、第3図に於て、37は地メリヤス、38はバイルである。

本実用新案の編機に於て、摺動盤5が第2図の矢の方向に摺動すれば、副摺動盤16は之に共動する。

杓子針3は上げカム6の右辺で進出し、左方の下げカム7で退入し、退入の途中で地糸35とバイル糸36を引掛けて喰え込み、第3図の地メリヤス37を編む。

バイル引出針13は、下げカム18の右辺で退入し、左方の上げカム19により、杓子針3とそれ連いに進出し、地糸35より少し高い目に杓子針3の列に渡つたバイル糸36を叉状部14で掬い上げる形に支持し、第3図のバイル38をつくる。

以上に於て、引出針13が水平に進出するものと仮定すれば、針床1の頂点に突当らないため該頂点より上を通つて進出せなければならない。ところが、杓子針3に供給せられたバイル糸36は、引出針13が進出する位置で針床1の頂点の背後に横たわっているから、バイル糸36が僅かでも上記頂点以下に重れていると、本引出針13はバイル糸36を掬い上げることができない。ところが本実用新案の副針床9は前端を針床1の上端に向けて上方に傾斜しているため、バイル引出針13はやゝ下向きに進出する。從て叉状部14の尖端は主針床1の頂点に突当ることなく該頂点より低くその背後に進出することになり、バイル糸36が該頂点以下に渡つてもこれを確實に掬える。

DUJ AVAILABLE COPY

また、パイル引出針13は、その進出する場合、バツド15でこり止片22をバネ28の力に抗い押除ける。従て後位の引出針13が前位の引出針13と同時に或は先にこり出し、パイル糸の捕捉を不確実にすることが無い。これは副針床8の前端が下方に傾いているため、パイル引出針13がパイル糸38を捕える大切な時に勝手にこり出さないように抑止するわけである。

摺動盤5が第2図の矢と反対方向に摺動する工程では、これが上げカム6の左翼、下げカム8、副摺動盤9の下げカム18の左刃、上げカム20、こり止片23が働き、地メリヤス37とパイル38とをつくる。

パイル引出針13は、パイル38を引出し後、次の

工程で約子針2が進出する迄引続いて進出の位置を保ち、パイル38の形成を確実にする。

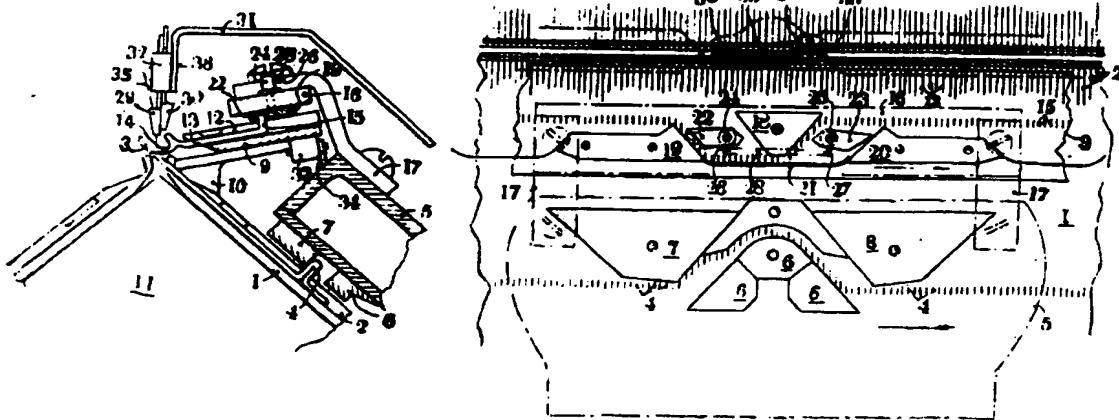
本実用新案は、上記したように、パイル引出針の傾斜、パイル引出針のこり止、パイル引出針の進出位置の持続等により、正確にパイルメリヤスを編成する効果を奏するのである。

A 登録請求の範囲

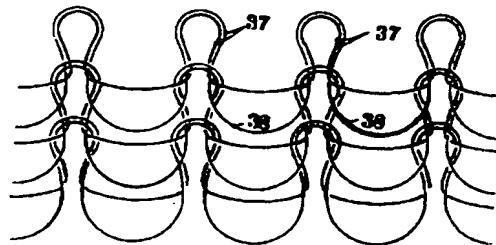
図面に示すように、横式パイルメリヤス編成機に於て、副針床8がその前端を針床1の上端に向けて下方に傾斜しており副摺動盤18は中央に倒梯形の下げカム、その左右に上げカム19, 20を備え、且この上げカム19, 20の作用面に対し、バネ28で引張られたこり止片22, 23が軌道せられた構造。

第2図

第1図



第3図



BEST AVAILABLE COPY
648